

提案基準⑫ 「社寺仏閣及び納骨堂」等

市街化調整区域に社寺仏閣及び納骨堂を建築する場合の基準は、申請の内容が次の各項に該当するものとする。
基準の内容
1 社寺仏閣に係る建築物の建築は、宗教法人法第2条に定める宗教団体が行うものであること。ただし、第4項に定める建築物については、集落、町内会等地域的な公共団体を含む。
2 納骨堂に係る建築物の建築は、墓地等の経営の許可等に関する条例（平成14年横須賀市条例第55号）第10条第2項に規定する経営者が行うものであること。
3 社寺仏閣は、本殿、拝殿、本堂、会堂等宗教的教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを目的とするものであること。 ただし、宗教法人等が行う公益事業その他の事業の用に供する建築物及び参拝者等のための宿泊施設は含まない。
4 前項に定めるほか、社寺仏閣は当該開発区域の周辺地域における住民の信仰の対象として歴史的に深いつながりがあったもの又は当該市街化調整区域に居住する者の信仰のうえから宗教的儀式を行うため若しくは信者を教化育成するために建築される社、庚申堂、地藏堂等の建築物であること。

審査上の解釈・運用

- (1) 基準2の「納骨堂」及び「墓地等の経営の許可等に関する条例」の主管課は、横須賀市健康福祉部保健所生活衛生課
- (2) 基準3、4の信者については、当該市街化調整区域内に居住することを原則とするが、その区域境界より市街化区域へ概ね1キロメートル程度までは考慮することができる。
- (3) 基準3の「社寺仏閣」には、庫裏、社務所、法事等を行うための休憩施設、その他宗教上必要な附属施設を含むものとする。
- (4) 基準3の「…儀式行事を行い、及び信者を教化育成する…」及び基準4の「…当該市街化調整区域に居住する者の信仰のうえから…信者を教化育成するため建築される…」の扱いは次による。
 - ア 宗教活動の実績について当該地域社会の宗教活動の実績に基づき設置される宗教活動上の施設を対象としたものであり、新たな拠点としてこれから宗教活動を行うものは対象としない。
 - イ 当該地域社会とのつながりについて社寺仏閣のすべてを認めるということではなく、当該市街化調整区域を中心とした地域社会の日常の宗教的生活に関連した施設を対象とする。